



平成 27 年 9 月 11 日

国土交通省中部地方整備局

四日市港湾事務所

(お 知 ら せ)

工事現場でふ化したウミガメが大海原へ旅立ちました

～堤防改良工事中の津市栗真町屋海岸～

四日市港湾事務所では、津市の栗真町屋海岸で、老朽化した海岸堤防の改良工事を行っています。

この工事現場内で、6月1日にウミガメの産卵が確認されました。卵を保護するため、当事務所では、産卵を発見した『三重大学 ウミガメ・スナメリ 調査・保全サークル「かめっぷり」』や工事関係者と協議し、矢板(鉄の板)の設置位置を産卵場所を避けるように変更しました。

また、工事関係者等による海岸の流木・ゴミ撤去や、ウミガメネットワーク・「かめっぷり」による、ふ化後、砂から脱出したウミガメが安全に海へ向かうことができるようにするための「ウミガメロード」整備などの取り組みを行い、当事務所・工事関係者・ウミガメネットワーク・「かめっぷり」が協力して、産卵場所を見守ってまいりました。

産卵から87日目となる8月26日の午前8時頃、台風15号の影響が残る中、12匹のウミガメがふ化、砂から脱出し、大海原へ旅立って行きました。

その後、8月26日午後6時頃に1匹が(動画あり)、28日午前10時頃に1匹が(動画あり)続き、今日現在までに確認できているだけで14匹が海へ向かいました。(ふ化した個体数は、9月11日「かめっぷり」により行われる「ふ化率調査」で確認されます。)

大きく立派なカメに成長し、産卵のためにこの海岸に戻ってきてくれることを願っています。

【産卵の様子】(情報提供:ウミガメネットワーク、三重大学 ウミガメ・スナメリ 調査・保全サークル「かめっぷり」)



産卵後、「かめっぷり」により母ガメの甲羅計測(長さ、幅)と右後肢へのタグ取付けが行われました。母ガメは時々休みながら海へ帰って行きました。(平成27年6月1日撮影)

【ふ化したウミガメが海へ向かう様子】子ガメ達は「ウミガメロード」を通して海へ向かいました。





【ふ化までの取り組み】

①矢板(鉄の板)の打設場所変更

産卵場所と海との間に矢板を打設しないよう、コの字型に設置位置を変更。



②ウミガメロードの整備(「ウミガメネットワーク」「かめっぷり」)

砂から脱出したウミガメが安全に海へ向かうことができるように、産卵場所から波打ち際への仕切りを整備。



【産卵場所】

津市 栗真町屋海岸(栗真町屋2工区現場内)

【取材制限】

なし。
動画提供を希望される場合は、問い合わせ先までご連絡ください。

【問い合わせ先】

国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所
副所長 赤石(あかいし) TEL 059-351-1357



栗真町屋
2工区

背景図：海上保安庁、国土地理院承認番号平 24 情使、第 916 号(C)Esri japan

【配布先】

中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、三重県政記者クラブ、津市政記者クラブ、港湾新聞社、
港湾空港タイムス、日本海事新聞社、海事プレス

【補足情報】

○ウミガメネットワーク

ウミガメの保護と海岸保全を目的に、ウミガメの情報発信や海岸清掃、学習会開催などの活動をされています。(http://umigamenet.jimdo.com/)

○三重大学 ウミガメ・スナメリ 調査・保全サークル「かめっぷり」

三重県の海岸に上陸・産卵するアカウミガメや、伊勢湾に生息するスナメリの調査をされています。(http://mienameppuri.web.fc2.com/)



【補足情報：海岸堤防の改良工事について】

津松阪港海岸は、昭和 28 年に来襲した台風 13 号、さらには未曾有の災害をもたらした昭和 34 年の伊勢湾台風により壊滅的な被害を被り、昭和 28 年から昭和 38 年にかけて災害復旧事業として海岸堤防が整備されました。

その後、約半世紀が経過し海岸堤防の老朽化が著しいことから、液状化対策等を含めた抜本的な高潮対策が必要となり、平成 4 年度から堤防の改良を開始、老朽化が著しい松阪地区・三雲地区・香良洲地区・津地区(贄崎工区)の約 11km について堤防改良が完了しています。

現在は、津地区の栗真町屋工区(延長約 2km:平成 23 年度着工)と、阿漕浦・御殿場工区(延長約 3.5km:平成 26 年度着工)の整備を進めています。

【栗真町屋工区】



【阿漕浦・御殿場工区】

